

東日本大震災復興支援 ～石巻より～ ③

松浦市職員 高松 亮

突然ですが、皆さんは石巻市(渡波地区万石浦)が近代カキ養殖発祥の地だということをご存知ですか。そして石巻市ではカキ養殖には欠かせない種ガキを、宮城県内他地域をはじめ、日本全国に出荷しており、震災前ではシエアの7割近くを占めていました。種ガキとはカキの養殖用種苗のことです、主なものはロープにホタテの殻を50枚ほど通し、カキの卵を殻に付着させたものを言います。

この種ガキですが、東日本大震災による津波の影響で養殖棚が流されたことや、地盤沈下によるカキ処理場の使用不能などにより震災後には出荷数が半分以上(宮城県全体では十分の一)にまで落ち込んでしまいました。一時はどうなることかと思われましたが、なんと現在では8割くらいまで回復しています。というのも石巻市の種ガキは生命力が強く、ウイルスで全滅しかけたフランスのカキを救ったこともあるのだそうです。

石巻市では毎年十月ごろからカキのシーズンが始まり、各地でカキ小屋がオープンし始めます。身が大きく味も濃厚で一度食べると忘れられない石巻市のカキ、これを味わうことができるのも震災を生き抜いてくれた種ガキのおかげであり、もちろんそれを成し遂げた漁協をはじめとする漁業関係者の

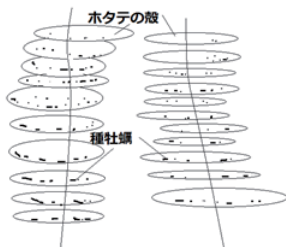
功を成し遂げた漁協をはじめとする漁業関係者の



▲万石浦の海



▲カキ小屋の様子



▲種ガキのイメージ

方々のおかげであります。石巻市でカキは重要な産業となっております。行政はこういった市の産業を守り、さらに発展させるためにしっかりとサポートを行っていかねばなりません。それが震災からの復興につながっていきます。皆さんも次に養殖カキを食する機会がありましたらこの種ガキから養殖されているかを確認してみてください。もしかすると知らず知らずのうちに復興の一助となっているかもしれません。

先月、三月十一日をもって、震災から五年が経過しました。昨年同様追悼式が開催され十四時四十分には黙とうがありました。震災からもう五年なのか、まだ五年なのかは人それぞれだと思いますが、石巻市内では震災後県内初となる新駅の開業(三月二六日予定)、県合同庁舎建設着工、石巻市新市立病院の開業(九月予定)など、日々復興は進んでいます。反面、行政では派遣職員の数が減ってきており、実質職員一人一人の負担は増えています。

そのような状況もあり、私事ではありますが、一年間派遣が延長となりました。今後一層業務に邁進し、復興の一助となるよう精一杯がんばります。

わたしたちの郷土

120巻

中世の松浦(86) 鷹島海底遺跡

2月6日と2月14日に、東京国立博物館と九州国立博物館において、琉球大学法文学部教授池田榮史氏を研究代表者とする平成23～27年度科学研究費補助金基盤研究(S)「水中考古学手法による元寇沈没船の研究」研究成果報告講演会が開催されました。この講演会は、池田教授が中心となり進められた鷹島海底遺跡における5年間の調査成果を報告するもので、松浦市および松浦市教育委員会が共催団体となり開催されました。両会場とも、多くの人にご参加いただき、盛会裏に終了しました。

ここで、鷹島海底遺跡内での船体を発見するためにキーポイントとなった海底の音波探査について、「海底音波探査手法と元寇沈没船の発見」と題した、海洋地質のスペシャリストである琉球大学鷹島海底遺跡調査員 滝野義幸氏の報告の一部をご紹介します。

滝野氏によると、研究当初、音波を使用した探査において海底の遺物などのような反応をするのか世界的に見ても指標となるものは何もなかったと語っています。そこで、まずは考古学を学ぶことから始められ、手探りの状態で、海底の地形から判断される場所や音波探査の反応、試掘などを行った結果と整合性を見出しながら検証を行い、その結果、鷹島海域における海底に沈む船の有力な反応パターンを確認するに至ったそうです。

滝野氏は、「探しているものを理解しないと探し出せない。船体を音波探査で見つけることは、スイカを食べないで音だけで甘いのかどうか判断していることと同じで非常に困難であった」とその苦労を語っています。

また、「検証結果により発掘した2隻とは別に、新たな船の発見につながる反応もある」と、今後、更なる沈没船の発見に期待が膨らむお話もありました。



▲東京会場(東京国立博物館)で報告をする滝野氏

Podcast - ポッドキャスト -



ティーガン・スコット
Tegan Scott
オーストラリア出身

木曜日と金曜日は小学校と中学校で英語を教えるために福島まで運転して行き、交通の状況にもよりますが、約1時間かかります。学校で教えることは楽しいのですが、通勤が大変で、特に冬はまだ朝の暗いうちに家を出て、夕方暗くなってから家に帰ることもしばしばで、最初のころは車を運転することが憂うつに感じることがありました。

しかし、「ポッドキャスト」を知ってから、運転が楽しくなりました。「ポッドキャスト」とはラジオ番組のようなもので、ラジオと違うのは、iPhoneやiPad、スマートフォンやタブレットにダウンロードをして聴くことです。パソコンでインターネットに接続しても聴くことができます。多くの人々がさまざまなことについて、「ポッドキャスト」に情報を提供しています。中には、最近の出来事やテレビ番組、映画などについてもあります。

私が好きな「ポッドキャスト」は歴史に関するもので

す。学校では学ぶことができなかった歴史上の出来事について学ぶことが好きです。ビザンティン帝国や十字軍の歴史について聴いたり、もっと楽しいものとしては、「Welcome to the Night Vale (ナイトベイルによるこそ)」を聴いたりしています。これは説明することがとても難しいのですが、「ナイトベイル」と呼ばれるとても小さい町で起こる不思議で気味が悪い出来事についてのコメディです。この他には「Serial (シリアル)」という、アメリカで起きた未解決事件についての番組も聴きます。これも少し気味が悪い内容ではあるのですが、法律や裁判の事例、警察の調査報告があり、私にとっては興味深いものです。

もしも、長い通勤・通学時間がある人や何もすることがなくて、新しい情報が欲しい人には、「ポッドキャスト」をお勧めします。きっと多くのことを学ぶことができますよ。では皆さん、良い4月を!



図書館の おすすめ本

市立図書館
☎ 0956-72-4677

松浦市ホームページで
「松浦市立図書館」を検索



『声のお仕事』

川端 裕人 / 著 文藝春秋

テレビなどで観るアニメーションや映画で耳にする声で収入を得る仕事。観る人の前に姿を現す俳優や歌手ではなく、声だけで表現する面白さや、難しさが臨場感たっぷりに描かれた小説です。自分の仕事とは違うジャンルの仕事の世界を覗き見ることができます。



『えんぎがいい』

雨宮尚子 / 著 白泉社

昔から「えんぎがいい」、「いいことがある」と言われている動物がいます。まねきねこや神社のきつねなどなど…みなさんはいくつ知っていますか? 大人も子どもも楽しみながら日本人の心に触れてみましょう。「えんぎがいい」のはなぜ?を知る楽しい絵本です。

◆◆◆家庭で! おはなし会で! 読み語りにぴったりの本が届きました! ◆◆◆



今年もボランティアグループ「おはなしのかいポケット」さんからいただいた児童書の図書購入費でたくさんの絵本が届きました。

今回は、新しい本や大型絵本に加え昨年8月、11月、今年2月と3回に渡り図書館で実施した『家庭で! おはなし会で! 「読み語りをもっと楽しく」連続講座』の中で講師より紹介された絵本やわらべうたの本なども届いています。家庭での読み語りやおはなし会などでどうぞご利用ください!

※図書館ではお母さんとあかちゃんの来館もお待ちしています!